

雪と氷の世界を再現

愛知・豊根村立豊根中で理科実験教室

財団のへき地校支援ソフト事業のひとつ「理科実験教室」が1月13日、愛知県豊根村の村立豊根中学校(原田基寛校長、生徒22人)で開かれました。講師は、北海道紋別市にある道立オホーツク流氷科学センターの学芸員、桑原尚司さん。クリオネの研究者として知られ、科学教室を主催したり、体験学習の講師を務めたりしています。

この日は生徒21人が理科室で、雪や氷にちなんだ実験をしました。

最初の実験は、「ダイヤモンドダスト」の再現です。四角い発泡スチロール箱の中央に金属の筒を入れて、周囲にドライアイスをおき詰めます。息を吹きかけて水蒸気を満たし、ドライアイスが削り入れます。そこをLEDライトで照らすと、キラキラと輝き、再現成功です。

水が凍る瞬間を観察する「過冷却」の実験では、氷の入った小さなバケツに、水と塩を入れて混ぜ、ゆっくりマイナス10度まで温度を下げます。そこに海水の入った試験管を入れても、凍りません。しかし、氷を一粒入れると、一瞬で白く凍りました。子どもたちは「すごい」と驚きます。海水はマイナス1.8度で凍り始めますが、ゆっくり冷えると凍らない場合があります。氷を入れて刺激を加え、一気に凍った現象が「過冷却」です。

続いて、流水について学びます。オホーツク沿岸が凍るしくみは「アムール川の大量の真水が注ぎ込み、海面近くに50mの塩分の薄い層ができるから」。海面と海底では塩分の濃度が異なり、混ざりにく



①ダイヤモンドダスト、見えた！
②試験管に氷を入れると、一瞬で凍る「過冷却」の実験
③講師の桑原尚司さん
④授業後、桑原さんが子どもたちにプレゼントにしたクリオネ

いため、二層に分かれています。次は、本当に混ざりにくいのかを調べる実験です。試験管に青く色の付いた濃い塩水を半分まで入れた後、透明な薄い塩水をスポイトで静かに注ぎます。すると、塩分濃度が高い青い水が下に沈み、くっきりと二層に分かれました。

最後はクリオネの観察です。翼足をパタパタと動かす様子に「かわいい」と目が釘付け。一種類の貝しか食べず、餌やりが難しいといいますが、何も食べなくても長期間生きるそうです。代表生徒は「不思議な実験ができて楽しかった」と感想を伝えました。

発災後、情報どうつなぐ

防災科研の成果発表会

ベルマーク財団のソフト事業「防災科学教室」を共催している国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)。その防災科研の成果発表会が2月21日、東京国際フォーラムで開かれました。

今年のテーマは「情報でつなぎ、災害対応を変える。」。南海トラフ地震や気候変動による大規模な水災害などの「来るべき国難級災害に備えて」と題したシリーズの3年目で、今年は「災害対応」に焦点をあてました。研究者4人がそれぞれの研究成果を発表、ジャーナリストの池上彰さん、林春男理事長と研究者をまじえてパネルディスカッションも行われ、国レベルの災害対応の情報を地方自治体の現場で使えるように整備していく取り組みなどが話し合われました。

詳しい内容は防災科研HPで閲覧できます(<https://www.bosai.go.jp/info/event/2022/seika/index.html>)。



10万点を集め、寄贈

ジャックスが北海道の小学校へ

大手信販会社のジャックス(本部・東京都渋谷区)が、全社をあげて集めたマーク10万点を北海道旭川市の市立啓明小学校(清水忠明校長、児童261人)に寄贈しました。

同社は2015年から、全役職員が参加できるボランティア活動としてベルマーク収集に取り組んでいます。これまで創業の地・函館の学校や災害被災校、特別支援学校などに寄贈してきました。2021年からはさらに地域社会に貢献したいと、全国にある営業所と協力して、各地の学校へ寄贈する活動を進めています。今回は旭川支店の近隣にある啓明小が選ばれました。

同校で2月20日、贈呈式が開かれました。「こんなに大きな金額を寄贈していただいたことに驚いた。非常にありがたい」と話したのは川田孝幸先生。茶岡功支店長は「喜んでくれたのを見ると、嬉しい。社会貢献活動の意義を改めて認識し、地域への貢献意識がさらに芽生えた」と話してくれました。



旭川支店の茶岡功支店長(右)とジャックス清水忠明校長(左)と

SDGs推進の一環として

AD全国プロ会が収集

協賛会社のあいおいニッセイ同和損保(ベルマーク番号92)の専業代理店組織「AD全国プロ会」が1年間集めたベルマークを財団に寄贈しました。2017年度から毎年寄贈を続けていて、今回で6回目です。

プロ会の細江哲也会長と、あいおいニッセイ同和損保専業営業開発室の須藤文野さんが3月9日、財団を訪れ、財団の小野高道常務理事にベルマークを手渡しました。

全国各地の1001の代理店が加盟しているプロ会では、店頭回収箱を置くなどしてマークを集めています。収集には、あいおいニッセイ同和損保の社員だけでなく、取引先やお客さんの協力も得ています。ある喫茶店のオーナーは、仕入れた商品にベルマークが付いていることに気づき、1年間貯めて持ってきてくれたそうです。

細江会長は「来年からSDGsをもっとアピールしていきたい。ベルマーク活動はその一環。マークが増えることを期待している」と話しました。



AD全国プロ会の細江哲也会長(左)と財団の小野高道常務理事

全校児童16人から「ありがとう」

高知・黒潮町立拳ノ川小から感謝メッセージ

高知県の黒潮町立拳ノ川小学校(上田壮校長、児童16人)の子どもたちから、感謝メッセージが届きました。昨年度支援したへき地学校のひとつです。

財団が贈ったのは、ソフトドッジボールやデジタイマー、電子ピアノなどです。品物の選定にあたっては欲しいものが多くあり迷ったそうですが、最終的に使用頻度の高さが決め手になりました。子どもたちが書いてくれたメッセージには「大事にします」「タイマーなどをくれたおかげで勉強やスポーツがはかどります」といった言葉が並んでいます。「16人で大切に使います」というメッセージもあり、全校児童が仲良く学校生活を送っていることが伝わってきました。



高知市内から高速道路を使って約1時間半、県の西南地域に位置する黒潮町。山あいにある同校は児童数が少なく、クラス編成は2学年ずつの複式学級です。教職員8人が力を合わせて、子どもたちが楽しく通うことのできる学校づくりを目指しています。

牛乳石鹼共進社が脱退 マークは半年間有効

牛乳石鹼共進社(ベルマーク番号37)が2023年6月末日で協賛会社を脱退します。同社のマークは12月末日に財団に到着した分まで有効です。

1961年からベルマーク運動に参加した同社は、主力商品の「赤箱」「青箱」などにベルマークを付けて60年以上運動を支えてくれました。

友愛援助リスト

〈東日本大震災〉3月1日～3月31日
◆秋田県 矢立小(大館市)◆千葉県 さわやか県民プラザ(柏市)◆東京都 上北沢小(世田谷区) 上鷺宮小(中野区)◆神奈川県 大沼小(相模原市南区)◆三重県 厚生小(伊勢市)◆兵庫県 西野幼稚園(神戸市長田区) 岩岡幼稚園(神戸市西区)◆岡山県 西中(倉敷市)◆広島県 なぎさ公園小(広島市佐伯区)
〈トルコ・シリア大地震〉3月13日～3月31日
◆兵庫県 賢明女子学院中・高(姫路市)

大台達成校

3月	千葉県船橋市	6,024,235
宮本小	神戸市灘区	5,017,317
福住小	福島市	4,034,281
清水小	福島県田村市	4,028,018
船引小	大津市	4,057,273
瀬田東小	兵庫県尼崎市	4,000,332
立花小	兵庫県尼崎市	4,008,545
竹谷小	横浜市栄区	3,008,945
西本郷小	長野県東御市	3,028,119
田中小	静岡県袋井市	3,013,983
周南中	埼玉県吉川市	2,004,355
関小	福岡県久米市	2,007,206
犬塚小	佐賀県鳥栖市	2,013,410
鳥栖小	岩手県大船渡市	1,287,466
第一中	群馬県安中市	1,039,264
原市小	横浜市神奈川区	1,012,538
六角橋中	大阪府東淀川区	1,013,385
小松小	徳島県鳴門市	1,004,161
板東幼稚園	高知県香美市	1,001,353
山田小		